

病院だより VOL.45

〒336-0931埼玉県さいたま市緑区原山3-15-31 TEL.048-882-2867

FAX.048-882-2887 <http://www.kyosai-hosp.or.jp/>

地域を支える医療の提供



写真：鈴木颯太郎 氏

VOL.45 目次

P2 院長就任のご挨拶

P3 コロナ禍における外来

P4 訪問診療の拡充に向けて

P5 より進歩した信頼性の高い健診を目指して

P6 管理栄養士が勧めるお料理レシピ

P7 外来診察表

外科 星野徹

看護部 室屋和枝

地域医療部 大和康彦

健診センター 神田裕三

栄養科 和田啓子



院長就任のご挨拶 外科 星野徹



外科星野です。この度4月1日付で共済病院院長に就任致しました。私にとって2度目の院長就任となります。今回は、新しい設備を整え病院を利用いただく皆さんの利便性と診療の質を高めることと、働く職員の働きやすさを改善するというふたつの目標を実現するために、病院の建て替えという大きな事業に取り組み、今ある病院を創り上げました。そしてこれからは変わりゆく医療を取り巻く環境に対応し、共済病院をより良いものにしていくことに力を注いでまいります。「安全で思いやりのある医療を提供し、地域を支えます。」という共済病院の掲げる理念にたがわぬ病院を、また、地域の皆さま、病院職員、そして病院にかかわるすべての皆さまから愛され、皆を幸せに導くことのできる、あたたかな無くてはならない病院を創っていきたくと存じます。

これからも共済病院をよろしくお願い申し上げます。





コロナ禍における外来 看護部 室屋和枝

コロナウイルスと対峙して2年余り。当院では2020年4月から発熱外来を開設し、感染拡大の第一波からコロナ疑いの方の対応を行ってきました。発熱外来の実施には、未知のウイルスへの対応ということや、当時、感染防護具の不足などが重なりスタッフも不安を抱えた状態で勤務せざるを得ない状況でした。対策としては、自治医科大学さいたま医療センターの感染対策室の協力を得ながら、試行錯誤でその時可能な最善の対策を行いました。

発熱外来を実施すると、症状がある方の直接のご来院や電話での問い合わせ、近隣の先生からのご紹介等が予想以上にあり、特に、少しの体調の変化にも「もしかしてコロナ？」と不安に感じ、電話でのお問い合わせいただいた多くの方の対応をさせていただきました。その時、コロナは身体的な症状だけでなく、人々をこんなにも不安にさせる病であると気付かされ、不安な思いにもしっかりと対応することを心掛けてきました。そうしてコロナにも対応してきた中で、地域の皆様からの温かい励ましの言葉やマスク等の寄付などにどれだけ支えられたかわかりません。地域を支える病院でありたいと思ってきましたが、私たちも地域の方々から支えられていることを実感できた2年間でした。改めてお礼を申し上げます。

コロナ禍は辛いことも多くありましたが、この貴重な体験から学んだことや感じたことをしっかりと心にとめ、今後も皆様の思いに寄り添える外来を目指し、地域の病院としての役割を果たしていきたいと思います。





訪問診療の拡充に向けて 地域医療部長 大和康彦

2022年1月、共済病院に入職しました大和康彦です。22年間、総合診療と在宅医療の研鑽に励み、うち13年間は緑区・南区のクリニックで地域医療に関わってきました。この度、本松理事長の心温かい人柄と、長年にわたる「共済病院の1つの大きな柱として、訪問診療部門を拡充してもらいたい」という熱意に、私の医師人生の後半をかけてみようと思いました。



高齢者世帯の増加、認知症患者の増加、超高齢社会から多死社会への変化が始まりつつある中で、「治す医療」から「支える医療」に大きくパラダイムシフトが進み、在宅医療の重要性が年々増えています。

通院が困難になったり、医療依存度が高い状態での在宅療養生活を「支える医療」とは、患者・家族の理解や、様々な職種の連携の元に行われるもので、在宅での生活の質を重視しながら、縁の下としてサポートしていく「寄り添う医療」です。人生の大先輩方の尊厳を一番に守りながら、健康管理の点で不利益がないよう修練を重ね、温かく心に「寄り添う医療」を心掛けていきたいと思っています。

総合診療科として週3回外来も担当しています。訪問診療について希望や質問がございましたら、お気軽にお問い合わせ頂けたらと思います。



より進歩した信頼性の高い健診を目指して 健診センター長 神田裕三

検診センターの使命は、皆様の明るい生活を守るために、身体の種々の検査を行うことで、健康状態を評価し、さらに健康維持とその向上に役立てることにあります。

当センターは、病院併設の特徴を生かして、受診者に様々なサービスを提供することができます。一度の来院で複数の検査を受けることが可能です。乳がん検診や婦人科検診にはそれぞれ病院の専門の医師が担当されています。また検査結果でもし異常所見が判明された場合には、精密検査のために速やかに病院医師へ紹介することができます。

当センターでは、新たな検査体系（コース）を昨年から追加実施しています。加齢とともに増加する骨粗鬆症および脳血管疾患に対処して、骨ドックおよび脳ドックを開始しました。骨ドックでは、骨量の測定を行い、さらにFRAXを用いて骨折のリスク評価も行なっています。骨粗鬆症の治療の目的は骨折の予防で、その基本は運動、栄養、薬物療法です。整形外科医師、理学療法士、管理栄養士が連携して改善の指導に努めています。脳ドックでは、頭部MRI検査および頸動脈超音波検査を行い、脳の器質的診断や動脈硬化の判定を行なっています。動脈硬化につきましては、高血圧、脂質異常症、糖尿病などとの関連があり、同一日に検査が実施できますので、総合的な診断が可能となります。

今後の検診のあり方については、医療の進歩に伴う検査項目の拡充をはじめ、信頼性の高い検査データの提示、より早い検査結果の報告、さらに受診者の観点からの待ち時間の短縮、能率のよい検査の流れ、丁寧な結果説明など、様々な問題点が取り上げられ議論されています。その方向性は、健診を通していかに健康な生活に貢献できるかに尽きると考えられます。これからも信頼性の高い、安心いただける健診センターを目指して職員一同努力して参ります。

医療法人博仁会 共済病院

健診センター



～管理栄養士が勧めるお料理レシピ～栄養科

市販素材でらくらく簡単！春寿司のフラワーギフト

春一番が北風を押し、けの香りを運んできました。しかしながら世界は未だ収束しないコロナと戦争への不安で鬱々とした日々が続いています。長いマスク生活の中で笑顔を作ることを忘れ、無表情になっていることにふと気づくことはありませんか？こんな時だからこそ心の健康管理も大切にしたいものです。今回は華やかなフラワーギフトに見立てたちらし寿司をご紹介します。市販素材を使用してお手軽に。でも盛り付けをひと工夫すれば、おしゃれな一品に仕上がります。使い捨てのクリアカップに入れてラッピング材等で包めば持ち運びにもよし、ギフトにもよし。心にも春の栄養を注入して晴れやかに春を満喫しましょう。

材料(4人分) 1人分 495kcal 塩分 2.4g
具材

- ・ごはん 茶碗 4杯分
- ・すし酢 小匙 4杯
- ・ちらし寿司の素 2人前用 1袋
(具材入りの混ぜ込みタイプのもの)
- ・鮭フレーク 大匙 4杯
- ・炒り卵 2個分(砂糖少々油適宜)
- ・桜でんぶ 小匙 4杯
- ・生ハム 12枚
- ・いくら 小匙 2杯
- ・筍の煮物(市販品) 小1パック
- ・菜の花の辛し和え(市販品) 小1パック
- ・ブラックオリーブ 4粒・マイクروتマト 少々
- ・スナップエンドウ 4さや
- ・リーフレタス 4枚
- ・甘酢生姜、切り海苔 各少々



～作り方～

- ①ご飯は半分に分け一方にすし酢、もう一方にちらし寿司の素を混ぜる。卵に砂糖を入れ溶きほぐし荒めの炒り卵を作る。スナップエンドウはすじとりし塩ゆでにして水にさらし、さやを開く。
- ②透明のグラスやクリアカップに具入りのすし飯、桜でんぶ、炒り卵、具なしのすし飯、鮭フレーク、切り海苔の順に入れていく。
- ③生ハムや甘酢生姜で作ったバラの花やその他の具材をフラワーアレンジメント風に盛り付ける。＊ラッピングは適宜お好みで!!

＊菜の花こぼれ話＊

「菜の花や月は東に日は西に」と蕪村が詠んだ菜の花は春の季語。

「いちめんのなのはな、いちめんのなのはな...」で繰り返される山村暮鳥の詩はあまりにも有名です。観賞用に食用にそして文学作品にも使われ親しまれてきた菜の花とは、ナタネやかぶ、キャベツ、ブロッコリー等黄色い花を咲かせるアブラナ科の花の総称ですが、一般的にはセイヨウアブラナの別名として使われています。食用では菜種油の原料として、また花蕾や茎、葉の部分は野菜として食べられてきました。菜種油は最近ではキャノーラ油の名前で売られていることが多く、オリーブ油と並んで不飽和脂肪酸を多く含む良質の油です。また野菜としてはβ-カロテン、ビタミンCが豊富で、独特の苦みが特徴。桃の節句の名脇役でも登場する春の香りを楽しむ食材です。

文・料理製作 和田 啓子

令和4年5月1日

※予約診(電話予約受付・変更時間 14:00~17:00)となります
 ※「●」は女性医師となります
 ※内科は基本的に高校生以上の診療となります(外科・婦人科はお問い合わせ下さい)
 医療法人 博仁会 共済病院
 ☎ 048-882-2867 (代)